



今村庄九郎看板

は、從来の和鋼・和鉄が
めました。明治維新後の日本で
の虫がゴソゴソと動き初
の看板を掲げていた『今村
庄九郎商店』とは? 好奇
心安価で品質の安定した
洋鋼の使用へと進みました。
た。当初は輸入に頼って
いましたが、やがて洋鋼
の国産化が始まります。
そうした時流の中、河合
洋鋼商店は明治末期、和
鋼のようなくる強い洋鋼
を作りました。東郷
平八郎の名を商標にし
た「東郷ハガネ」の卸元
だった同社は、英國のア
ンドリュー社に和鋼のサ
ブルを集め評価し、ス
ウェーランのダンネ
モラ鉱山で採れた鉱
石から製造した地金
が、もつとも和鋼に
近い性質を持つこと
を知りました。ダントンモラ地方
に豊富に埋蔵され
いる鉱石は燃分が少
ない磁鐵鉱の鉱石
で、マンガンを多量
に含みました。この
鋼はネバリがあり
て、木炭製錬し

資料1 「滋賀県の農工業」
明治43年大鋸生産数量と金額

年	産額		単価
	数量(枚)b	金額(円)a	
明治37年	3,200	15,000	4.69
明治38年	5,100	29,500	5.78
明治39年	5,800	68,600	11.83
明治40年	25,000	103,300	4.13
明治41年	27,000	114,840	4.25

明治40年に清算量5倍に増え、単価が下がっています。これを洋鋼が多く使われ始めたのは明治40年頃からかも知れません。

(参考図書1 P.206~207)

た。松山松雄氏・八里
金左右衛門氏の諸氏が写
っています。他の資料によると今村庄九郎商店では大鋸の製造も行っています。

り、品質が良かつた。そこでアンドリュー社にこの地金を用いた鋼の製造を依頼し、ようやく希望の製品を得て「河合規格」の鋼として、明治42(1909)年に販売を開始しました。

「東郷ハガネ」で作った刃物はよく切れると評判をとり、前挽大鋸(おが)の製造では玉鋼を使用して、前挽大鋸(おが)の工程が省略され、製造能率が数倍になり、コストが大幅に下がりました。その為、玉鋼製の大鋸は姿を消してしまった。(参考資料1)

看板には『從来玉鋼ヲ
前挽鋸工業協同組合』

鉄のふしぎ? 博物館

■24

『東郷鋼の看板 後日談』

画像はカラーと
交換しています。

衣川製鎖工業・衣川良介社長

てんひー、

天彦三十周年記念誌

百二十三周年記念誌
天彦三十周年記念誌

鍛ヘテ木挽用前挽及
型鋸ヲ製造セラル鍛錬師
各位ノ為メ特に特撰銅
ヲ産スルヲ以て有名ナル
弊店特約ノ製鋼場ニ命
ジ前挽専用トシテ製セシ
メシ鋼ニシテ其性合恰
モ玉鋼ヲ鍛ヘテ作リシガ
如ク頗ル強靭性に富ミ

歯持良ク(以下略)と書
かれています。

『今村庄九郎商店』の記事が天彦産業様の百二十三周年記念誌に出ていました。それは昭和40年3月、前挽鋸工業協同組合の解散記念写真です。

ちなみに、この百二十三周年記念誌は6月号を掲載した後に、(株)天彦産業よりお送り頂きました。それは昭和40年3月、前挽鋸工業協同組合の解散記念写真です。

滋賀県甲賀郡で前挽大鋸の製造等に関わった人々の写真が掲載されています。松山松雄氏・八里平右衛門氏・今村庄九郎氏・樋口彦三郎氏・奥村氏よりお送り頂きました。



昭和40年3月、前挽鋸工業協同組合の解散記念(塩野温泉)。右から松山松雄、八里平右衛門、今村庄九郎、樋口彦三郎、奥村金左右衛門の各氏

参考図書

①むらの鍛冶屋 香月
節子・香月洋一 平凡社
1986年

②河合鋼鐵 111年
のあゆみ 昭和58(1983)年8月

③鉱物たちの庭(イン
ターネット)
999(1999)年8月

④天彦産業の百二十三
周年記念誌 平成11(2000)